



真の楽しさ、生み出す力を

去る6月24日、東京・神宮外苑の東京藝術学舎で、ふるさとという最前線第6期の最終講義がありました。これまでの取り組みや今後の佐木島での活動について各チームが報告、講師の松井利夫先生、山崎亮先生、西上ありさ先生からアドバイスを受けました。studio-Lの山崎亮先生(写真)は「参加し、ふるさとの課題に取り組む中で、真の楽しさを生み出す力を身につけられる。それが、国の未来や我々自身の人生の豊かさに影響をあたえるのでは」と話していました。

講義が終わっても、継続的な活動が出来るよう、各チームのリーダーによる定例会なども始まり、協力体制も整ってきました。

5感で体験ツアーを企画

若い人に「5感」で佐木島を楽しんでもらいたい、しましま☆ラヴァーズでは9月6、7両日、体験ツアーを予定しています。バーベQや本格カレーでみなさんとの交流も計画中。詳細は次号で。

この欄のお問い合わせ、ご意見ご感想は、東京藝術学舎ふるさとという最前線第6期生、戸村裕司(080-8050-7535、tomurayuji@mac.com)まで是非どうぞ

旅のあと、島の人のメッセージが書かれた絵葉書が届いたら、再び佐木島を訪ねるきっかけになるのでは…、そんな思いから生まれた絵葉書プロジェクトがトライアスロン当日に行われます。
ちよつと変わった絵葉書
「レター・フロム・サギ」佐木島からの手紙」と名付けられたこのプロジェクトを実施するのは、ふるさとという最前線のとーちゃんずというチーム。島外から人が多く訪れるトライアスロン大会当日に、オリジナルの島の絵葉書を販売します。
ここまでは普通の絵葉書販売と変わりありません。ところが、購入した人に自分宛てに手紙を書いてもらい、ポストではなく、回収箱に投函。集められた手紙には、島の人のメッセージが加えられ、発送される仕組みです。
(図参照)



深まり広がる、つながり
メンバーの井関玲子さんは「島の方のメッセージの入った、世界にひとつだけの絵葉書が、島とのつながりを深め、再び島に訪れるだけでなく、家族、友人と広がっていったら素敵です」と話しています。

メッセージ入りの絵葉書で再来島につなぎたい

トライアスロン大会で絵葉書プロジェクト、初めての試み



写真は試作品(左)ととーちゃんずの面々(下)です。
トライアスロン大会当日にはメンバーも来島。またメッセージを書いてくれる人も募っています。

温故知新

先人の足跡を尋ね、地域を再確認することは、私達の心に豊かさを与えてくれます。

三界万霊塔・六地藏 (その一)

安楽寺の境内には天保八年(一八三七年 江戸時代後期)に三界万霊塔のお地藏様が中央に位置付き六地藏が建立されています。

三界万霊塔とは

三界とは欲界・色界・無色界の世界を指し、発生から死滅までを繰り返しているこの世界のことであり、万霊とはありとあらゆる精霊のことなので、三界万霊塔はありとあらゆる精霊を合祀した塔のことをいいます。

どの寺にも三界万霊塔を祀っており、すべての精霊にご加護を頂いています。

六地藏とは

真ん中に三界万霊塔のお地藏さまが位置付き、左右それぞれ三体のお地藏さまが祀られています。
お地藏さまは現世の苦悩を祓除してくださる存在だけでなく、冥界へ赴く死者の冥途への道中を守ってくださる守護仏でもあり、墓地の入口や寺の境内、火葬場へ向かう葬道の傍らに立って葬列を見送っています。
したがって、六地藏は、墓の入口で死者を迎えたり、受け取ったりするので「お迎え地藏」「受け取り地藏」などとも言われています。

お地藏さま

地藏菩薩のことを一般的に親しみを込めて「お地藏さま」と呼んでいます。
お地藏さまは大地が全ての命をはぐくむ力を蔵するように、苦悩の人々をその無限の大慈悲の心で包み込み、救う所から名付けられたとされています。日本における民間信仰ではお地藏さまは人々にとって一番親しみやすい仏様であり、又「子供の守り神」としても信仰されています。



安楽寺の六地藏

協力… 山下博巳氏